

「第3回ビクター高柳会開会あいさつ」

司会：藤本 正熙（ビクター高柳会幹事）

高柳先生の本日1月20日のお誕生日にあたり、恒例の高柳健次郎財団主催の高柳健次郎賞等の授与式等が午後に予定されておりますが、3年前からそれに先立って我々ビクターに縁のあった者が集まる会合を開かせていただいております。高柳先生はおそらく116歳目のお誕生日にあられると思います。我が国の電子産業の振興をリードされ、また日本ビクターで我々ご指導をいただいたこの先生の業績を記念して先生



自ら財団をお作りになって、若手の振興事業がまだ続いているわけですが、我々ビクターで直接・間接ご指導いただいた者としてこの日に先生を偲び、また当時の我々の経験を語り継いでいこうと、こんな趣旨で「ビクター高柳会」を開かせていただいているわけですが。

今日はお二方のゲストスピーカーをお招きしてお話をいただくことにしております。まず和田哲郎様でございます。和田様は日本経済新聞で高柳先生の「私の履歴書」の取材をさせていただいた方でございます。それからもう一方は、ビクターOBの町田豊隆さんでございます。テレビの技術を引っ張ってこられた町田さんに往時のお話を伺う、今日はこんな趣向でございます。そのあと引き続きまして、軽食をいただきながらみなさんでいろいろお話をさせていただく交流会を持たせていただいております。

それでは和田哲郎様のお話をお伺いいたします。和田様は日本経済新聞社におかれまして、エレクトロニクス産業の取材にあられ1982年の産業部 次長・デスクの時代に高柳先生の逗子のお宅に度々通われて、先生の「私の履歴書」の取材にあられました。この「私の履歴書」が、後のいろいろな先生の履歴をご紹介する時の貴重な参考資料にもなっているということでございます。

本日は「私の履歴書：高柳健次郎 取材の思い出」ということでお話を賜りたいと思います。よろしく願いいたします。